

各協議会からの提案概要

1. 協議会名称 (仮称)いすみ市モビリティサポート事業推進協議会

代表者 いすみ市長 太田洋

2. 実施箇所 いすみ市大原中央商店街ほか市内観光地

3. テーマ

ユビキタス技術を活用した人にやさしいまちづくり

4. 提案内容

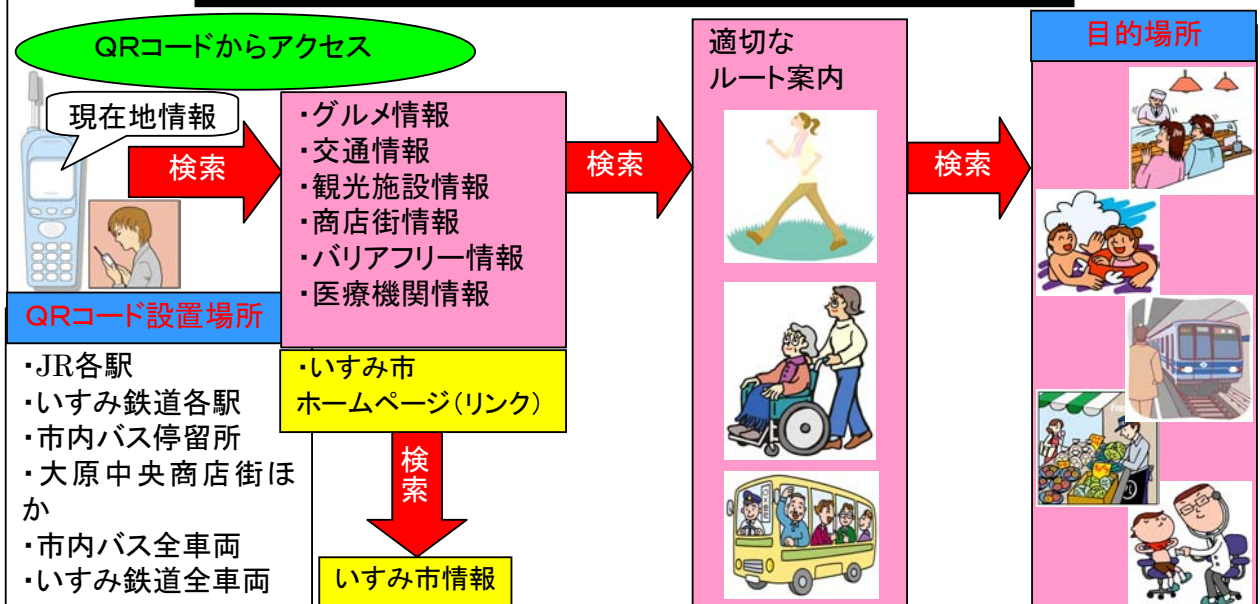
【情報提供の対象者】いすみ市民、二地域居住者、観光客

【提供する情報の内容】バリアフリー対応店舗、バリアフリー対応トイレ、医療機関、観光地、グルメ店舗、交通情報の情報案内サービス並びにルート案内サービスを提供し、「人にやさしいまちづくり」の実現を目指す。

【ユビキタス技術の活用方法】JR外房線の主要駅、いすみ鉄道の主要駅、市内バスの停留所、商店街の店舗、観光地等にQRコードを設置し、端末としては携帯電話を活用する。

図. ユビキタス技術活用の模式図

いすみ市のユビキタス技術を活用したモビリティサポート(イメージ)



5. 達成目標と達成時期

平成21年度は、高齢者や障害者が安心して買い物ができること、市民や観光客が店舗等を選択しやすくなることなどを旨とする。

平成22年度は、バリアフリー対応店舗が増えること、大原観光案内所を利用する人が増えることを旨とする。

1. 協議会名称 「東京ユビキタス計画・銀座」実施協議会

代表者 会長 横溝 良一

2. 実施箇所 東京都中央区銀座4丁目交差点を中心としたエリア

3. テーマ

ユビキタス技術を活用したまちづくりを継続していくための、官公民連携による携帯情報端末の貸出運用モデル案の策定

4. 提案内容

【情報提供の対象者】銀座への外国人や高齢者を含む観光客や来街者

【提供する情報の内容】誘導案内情報、現在地情報、歴史・観光情報、店舗情報等を日本語、英語、中国語(簡体字、繁体字)、韓国語の4言語5種類で実施する。

【ユビキタス技術の活用方法】街に設置された無線マーカ、赤外線マーカ、シールタグ等から専用の携帯情報端末で場所情報コードを読み取ることで、場所を特定し、その場所に適した情報を提供する。

図. ユビキタス技術活用の模式図



5. 達成目標と達成時期

平成23年度中に、官公民連携による携帯情報端末の貸出運用体制の下、継続的なサービス提供の実施を目指す。

1. 協議会名称 すみだ次世代モビリティ開発コンソーシアム
 代表者 会長 勝田 正文

2. 実施箇所 東京都墨田区

3. テーマ

次世代モビリティとデジタルサイネージを融合した観光情報サポートシステムの構築

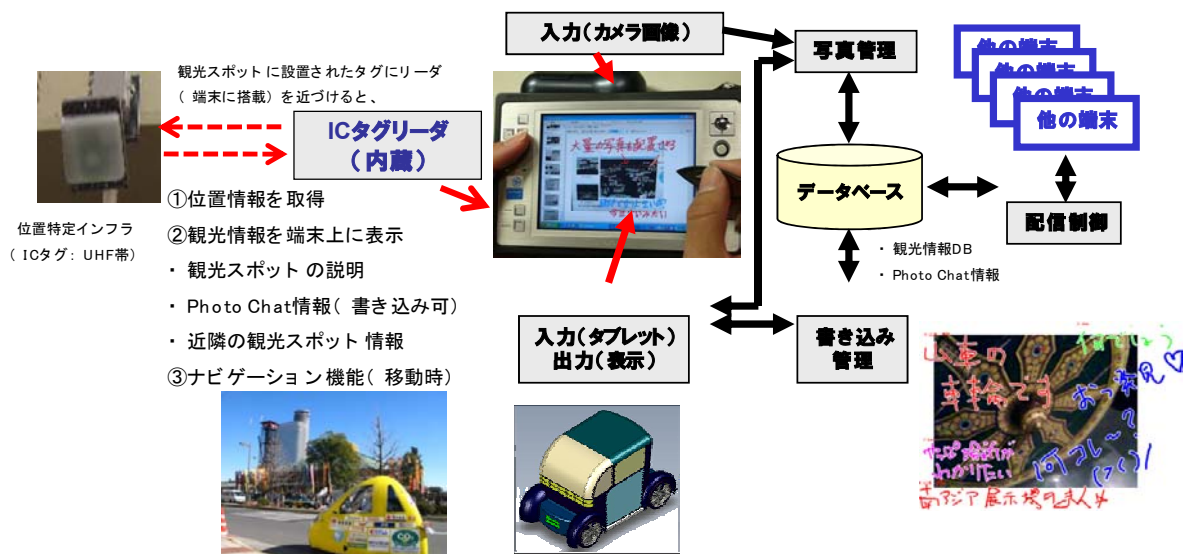
4. 提案内容

【情報提供の対象者】墨田区を訪れる観光客(国内外を問わない)

【提供する情報の内容】墨田区内の約40箇所の観光スポットをデータベース化した観光情報MAPと上記システムを連動させ、次世代モビリティの試乗とリアルタイムガイドシステムを連動した実証事業を東京都墨田区内で展開する。

【ユビキタス技術の活用方法】次世代モビリティによる拠点間の移動と観光スポットにおける情報提供・共有をユビキタス技術により行う。具体的には、次世代モビリティに脱着が可能な携帯端末を設置し、モビリティ運行時は、ナビゲーションツール、観光時にはデジタルカメラや位置特定インフラと連動することによってリアルタイムガイドとして活用するシステムである(Photo Chat System)。

図. ユビキタス技術活用の模式図



5. 達成目標と達成時期

■実証試験のための準備および計画策定(達成時期:2009年12月)

■実証試験の実施(達成時期2010年1~2月)

■ビジネスモデルの検討および成果取りまとめ(達成時期:2010年3月)

1. 協議会名称 KOBEカード協議会

代表者 会長 六車 由治

2. 実施箇所 兵庫県神戸市西区（西神中央駅周辺地域）

3. テーマ

ターミナル駅周辺における歩行者移動支援を目的とした場所情報コードの活用とバス運行情報等の一元化による円滑な移動情報の提供

4. 提案内容

【情報提供の対象者】神戸市営地下鉄西神・山手線西神中央駅および当駅発着バス利用者、ならびに西神中央センター来街者など

【提供する情報の内容】

- ①西神中央駅における一元化したバス運行情報の提供
- ②携帯WEBによるバス停別のバス案内詳細情報の発信
- ③地域ICカード(KOBE PiTaPa)の利用による個人にカスタマイズしたバス運行情報等の提供

【ユビキタス技術の活用方法】バス停留所に位置特定インフラ(QRコード)を配備し、バス停ごとの情報を携帯電話から取得し、利用者へのバス運行詳細情報等の提供を行う。

図. ユビキタス技術活用の模式図



5. 達成目標と達成時期

バス利用者に対するアンケートにより、利用者から「バス利用促進に効果がある、情報提供が効果的である」といった評価を得ること。達成時期は、社会実験実施後の1ヶ月とする。

1. 協議会名称 (仮称)今井町ユビキタス計画協議会

代表者 会長(檀原市長) 森下 豊

2. 実施箇所 檀原市今井町(重要伝統的建造物群保存地区)

3. テーマ

観光客と住民がストレスなく共存するためのUコード環境整備
飛鳥(にほん)の歴史(いまい)をみいる(見る・聞く)旅

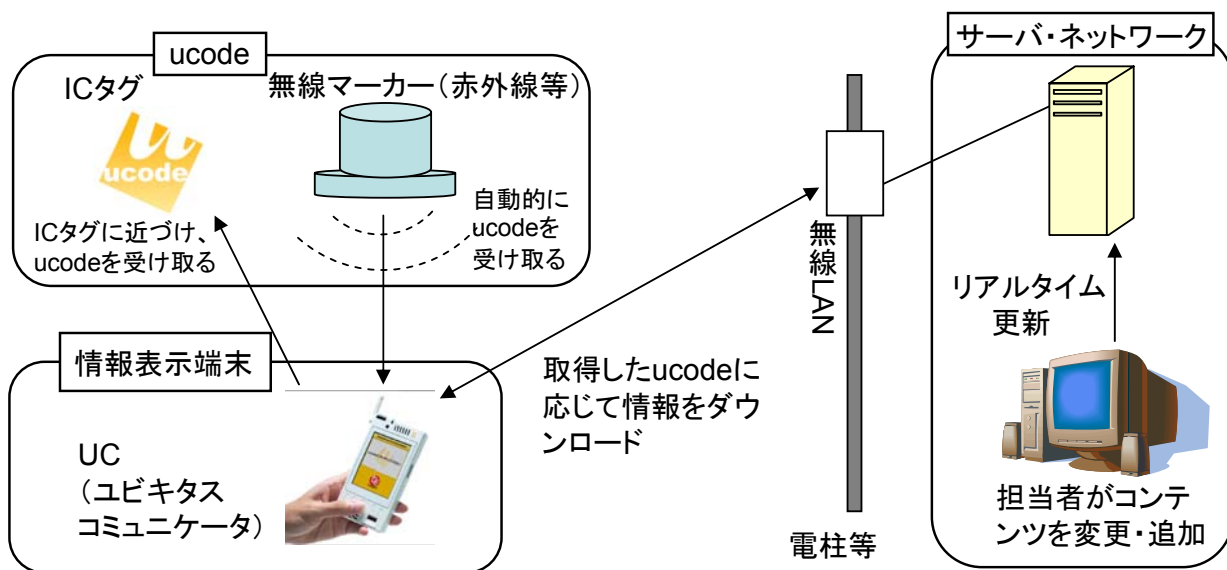
4. 提案内容

【情報提供の対象者】観光客

【提供する情報の内容】位置情報や文字情報、季節の移り変わりに合わせた町並みの様子、普段は目にすることのできない重文などの秘宝秘伝の写真などをはじめ、トイレの位置や食事場所、駅案内といった情報を入手できるようにする。

【ユビキタス技術の活用方法】今井町重伝建地区内町角の案内看板にucodeタグ等を設置する。町の入口に位置する今井まちなみ交流センター「華薨」においてユビキタスコミュニケーター(UC)を貸出し、それを用いて町中に設置したucodeを読み取ることで、瞬時に情報を入手する。

図. ユビキタス技術活用の模式図



5. 達成目標と達成時期

生活空間としての今井町と観光空間としての今井町との両立をはかり、地域住民と観光客との良質な距離を生み出し、お互いに「もてなしの心」をより発揮できる町を目指す。また、景観を阻害することにつながりかねない大型観光看板をなくすことで、美観を取り戻す。

→達成時期(実証実験として) 2009年度末を目処にした展開

1. 協議会名称 (仮称)室戸ジオパークモビリティサポート検討協議会

代表者 室戸市長 小松 幹侍

2. 実施箇所 高知県室戸市

3. テーマ

外国人観光客がジオパーク内の観光資源を体感してもらうための多言語対応環境の整備

4. 提案内容

【情報提供の対象者】室戸市への外国人・日本人観光客

【提供する情報の内容】位置情報、地質遺産の名称、地質的特徴、地元で伝承される伝説をテキストや動画などを駆使し、5か国語の言語にて提供する。

【ユビキタス技術の活用方法】対象者は事前に、提供される情報の言語を選択し、対象エリア内を専用端末とともに散策する。対象者が情報元付近を通過する際、標柱に設置した位置特定インフラから専用端末が場所情報コードを受け、その場所に関連した情報が自動提供される。あるいは、対象者は情報を検索することができる。

図. ユビキタス技術活用の模式図



5. 達成目標と達成時期

達成目標: 満足度1.5倍

導入前後に外国人の方々へ現地を観光してもらい、アンケートを実施。導入前の満足度を1とし、導入後満足度1.5倍を目指す。

達成時期: 本年度事業終了時

平成23年度にはリピーターの獲得、口コミ、他の事業との相乗効果により、年間外国人観光客数を現状の3倍に増やすことを目標とする。

1. 協議会名称 天神・大名地域WiFi化推進協議会

代表者 事務局長 杉山 隆志

2. 実施箇所 福岡県福岡市天神・大名地区

3. テーマ

天神・大名地域を訪れる外国人観光客の自律移動を支援し、海外と地域の交流を活性化することで、国際集客文化都市の実現

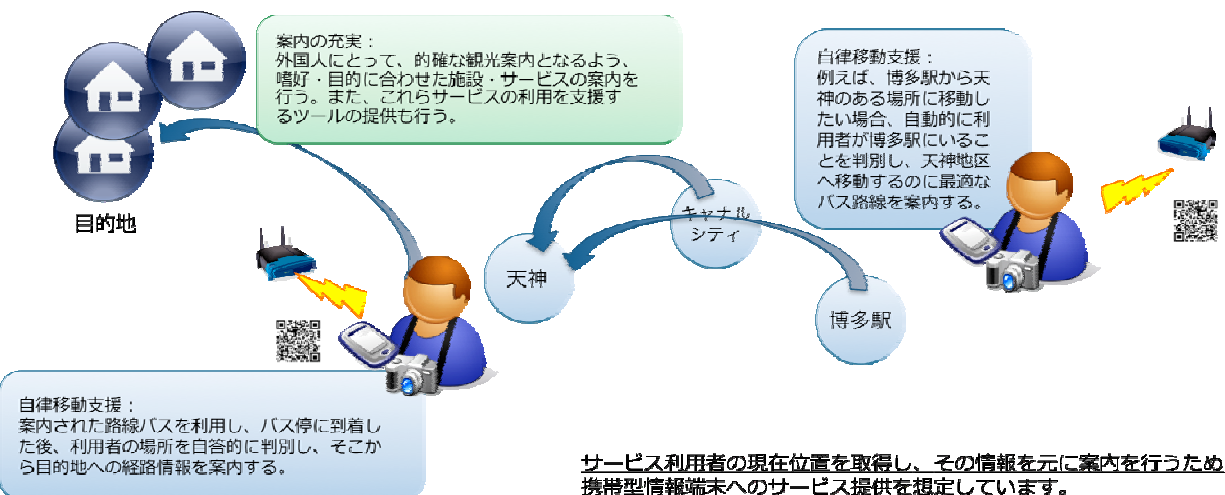
4. 提案内容

【情報提供の対象者】外国人観光客(約72万人／年超)

【提供する情報の内容】外国人観光客から指摘されている、外国語での案内表示・資料の不足を補い、望む場所への誘導を行うため、天神・大名地域の施設・店舗情報と、目的地までの経路案内を、外国語で案内する。この際、外国人の出身地域に応じて、案内する内容・種類を適正化することで、それぞれの外国人が望んでいる情報を的確に伝える。

【ユビキタス技術の活用方法】QRコードやWifi接続を利用して、uコードによって場所の特定を行えるようにする。現在位置情報から、上記の情報を地図上に表示する。

図. ユビキタス技術活用の模式図



5. 達成目標と達成時期

本事業の目標は、外国人観光客に対する移動支援・案内の充実・行動支援といった仕組みの提供が、観光の利便性を向上し、交流活動・消費活動が活発になり、地域の活性化につながることを立証する事である。外国人に対する端末貸し出し及び追跡調査をH22年1～2月中の期間で実施し、利用実態に関する調査を行い、この目標が達せられたかどうかの検証を行う。